

## 令和7年度 四万十町地域包括支援センター運営協議会 議事録（要旨）

日 時： 令和7年6月23日（月） 13時30分～15時30分

場 所： 四万十町役場 東庁舎2階 町民活動支援室

出 席： 田中委員（会長）、西村委員（副会長）、金子委員、野村委員、山本委員、澤田委員、谷本委員、  
岩崎（良）委員、武井委員、岩崎（千）委員

オブザーバー： 須崎福祉保健所地域支援室 島田室長、山本主査

事務局： 高齢者支援課／三本課長、福留副課長

大正地域振興局町民生活課／長森課長

十和地域振興局町民生活課／池田課長

地域包括支援センター／西原所長、石崎介護支援専門員、岡田保健師、松岡社会福祉士、  
門脇社会福祉士、瀬戸主事

地域包括支援センター大正支所／岡村介護支援専門員

地域包括支援センター十和支所／堀本十和支所長兼大正支所長

傍聴者： なし

### ■会議次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 自己紹介
4. 運営協議会設置要綱の説明
5. 議事
  - (1) 地域包括支援センター運営方針について
  - (2) 令和6年度 地域包括支援センターの実績報告について
  - (3) 令和7年度 地域包括支援センター事業計画について
  - (4) その他
6. 閉会

### ■議事結果

- (1) 地域包括支援センター運営方針について  
事務局より令和7年度運営方針について説明。

- (2) 令和6年度 地域包括支援センターの実績報告について

(事務局) 資料「令和6年度 地域包括支援センターの実績報告について」を説明。

(田中会長) 資料 P19 住民向け講演会について、「興味・関心を持ってもらえるよう検討する」とあるが、アンケートはとったのか。

(事務局) 税理士会が作成していたアンケートを実施した。成年後見制度や相続税、任意後見という項目があり、興味があることにチェックを入れるような内容になっていたが、実際悩まれている相続等に多くチェックが入っていた。

(谷本委員)：資料 P23 人生会議の啓発については、各市町に啓発してもらっているが、なかなか浸透しな

いという意見がどこでも聞かれる。県としても突破口を見つけたいと思っているが、何か要因があるのか。実際に啓発していて感じる事があれば、参考にしたいので教えてほしい。

(事務局) 人生会議という言葉が固いのではないかと思う。自分の人生、これからどのように過ごしていきたいかを高齢者に問うが、死に向かっていくことに対する言葉になる。死という言葉に苦手イメージがあるように感じる。啓発も一度では考えるきっかけにならないと思うため、自分ごととして考えてもらうために繰り返し行っていくことも大事。また、今まで高齢者を対象に啓発してきたが、今後は若い世代にも啓発していきたい。

(谷本委員) 終盤を迎えている人に対して「考えましょう」と周りも言いにくいいため、「早めに考えていきましょう」ということを、かしまらずに話ができる、そういう雰囲気づくりが大事なのかと感じた。引き続き啓発をお願いしたい。

(澤田委員) 元気なうちに考えるのが人生会議。元気がなくなれば考えることができなくなるからということで、若い60~70代の人達に啓発していけばいいと思う。資料P18 総合相談支援 休日や時間外の相談は具体的にどれくらいあるのか？

(事務局) 件数はあげていない。土日祝日の体制は、宿直が連絡を受け、緊急やどうしても連絡がとりたいたいという場合に、職員が交代で持つ携帯に連絡が入るようになっている。「急ぎのようだ」と連絡があり、折り返すと週明けでもよい内容や、伝言で済む内容であることが多い。高齢者の方は「今伝えたい」という思いがあるようだ。宿直が判断できず包括に連絡が入り、折り返し電話をすると、水道やゴミ出しのことだったりすることもある。

(谷本委員) 今の話を聞いていると、信頼関係があるからこそかなと思う。相談していたので、包括の方も気にしてくれているだろうと。月曜を待たず「大丈夫なんだよ」ということを、一刻も早くお知らせしたいという思いがあるのだと感じた。たいへんだとは思いますが。

(澤田委員) 資料P20 四万十町ケアマネジャー連絡会の評価指標のところ、全ての会に1回も参加していなかった人が数人いるということか。

(事務局) 1回以上参加したケアマネジャーが全ケアマネジャーの83%ということになっている。昨年度、5~6回開催したが、1回も参加されなかった方もいる。

(澤田委員) なぜなのか。

(事務局) ケアマネジャー連絡会の対象は、居宅と施設のケアマネジャーとなっているが、施設のケアマネジャーは人員の問題があるのではないかと思う。

(澤田委員) 研修に出て行くことができないのか、出て行きづらいのか。

(事務局) 実際に聞いたわけではないが、そうではないかと思う。施設ケアマネジャーの参加が少ない状況になっている。

(澤田委員) そこは課題である。オンラインも一つの方法かもしれないが、実際に行って研修に参加した方が勉強になる。集中できる。オンラインだと雑音が入ることもあるので。一回でも参加してくればよいが。

(事務局) オンラインで研修は受けることができるが、研修受講だけではなく、他事業所のケアマネジャーとの関係づくりも目的としているため、そういう目的でも参加してもらえればよいと思っている。皆が参加しやすい日程に調整する工夫はしていきたい。

(田中会長) ケアマネジャーの以前からの課題だと思う。やはり一人で抱え込まないで、色々な意見をもらいながらスキルアップしてもらいたいと思うので、今後の課題にしてもらい、お願いしたい。

#### (4) 令和7年度 地域包括支援センター事業計画について

(事務局) 資料「令和7年度 地域包括支援センター事業計画について」を説明。

(澤田委員) 資料P41 人生会議について講演会をするとのことだが、興味があるので日程を教えてください。

(事務局) 7月15日午後1時半から、四万十町役場東庁舎1階大ホールで開催予定。大正地域振興局とオンラインでつなぎ、大正会場でも受講可能。

(澤田委員) 資料P42 認知症映画上映を上映予定とあるが、人生会議ともつながる。「認知症になれば自分のことが判断できなくなるため、認知症になる前に自分のことをきちんと決めておく」というふうにつながっていけば、もっと入りやすいのではないか。認知症とつなげると皆、危機感を感じてくると思う。昨年の認知症映画は都合があり見るができなかったが、若い人でも認知症になるということを知れば、若い時から考えていかなければいけないという雰囲気になるので、そこをうまくつなげていくと、人生会議も入りやすいと思う。

(澤田委員)

最近では地域医療の人气がなくなり、年配の医師が増え、十和診療所は1名、大正診療所は2名体制で行っているため、時間外の対応は難しくなっている。医師の働き方改革もあり、在宅医療等がたいへんになってきているのが現状ではないかと最近感じている。時代も変化し、それに伴い高齢者とその家族の不仲という家庭が増えている。そうすると、家族支援が得られない状況の中で、包括の職員が動かなければいけないのはたいへんじゃないかと日々感じている。先程、人員も減ったと報告もあり、ひとりひとりの負担も増えてくると思うので。

(岩崎良委員) 資料P38 介護予防ポイント事業について、ボランティアへの参加対象者は18歳以上とあるが、可能であれば地元の高校生に若いうちからボランティア活動に参加してもらい、将来地域を担う人材になってもらえればと思う。若い世代へのアプローチもしてもらえればどうかと感じた。

(事務局) 今のところ、宅老所や運動自主グループに参加している参加者やボランティアを想定している。平日の日中に行っているため、学生については検討していなかった。志和で行っている防災リハビリ教室は、土曜日の午前中に行っているため、若い世代に介護予防や地域の活動を知っていただく意味でも、検討していきたい。

(岩崎千委員) 人生会議の研修はどれぐらい時間がかかるか。8月26日に民生委員200人~300人が集まる研修がある。その研修内容が未定で、もしよければお願いできたらと思う。

(谷本委員) あちこちで人生会議という言葉を知ってもらえるため、ぜひお願いしたい。

(野村委員) 資料P40 四万十町サービス事業所連絡会について、実感としてヘルパー事業所が明らかに減っているように感じる。以前、身内がお世話になった事業所も今はなくなっている。今は調整がたいへんになっているのではないかとと思うが、実情を教えてください。

(事務局) 町内のヘルパー事業所は5か所あり、ヘルパーの高齢化等色々課題はあるが、今のところ利用を希望された方が支援を受けることができないという状況にはなっていない。

(山本委員) 資料P40 地域ケア推進事業について、地域ケア推進会議の今年度の検討課題がゴミ屋敷の対応とあるが、ゴミ屋敷はあるのか。ヘルパーが来ていけば、ゴミ屋敷はないのではないか。

(事務局) ヘルパー利用を拒み、ヘルパー利用までに時間がかかるケースがある。それまでにゴミ屋敷になっている方もいる。昨年度、ゴミ屋敷を包括の職員と一緒に片づけることが何度かあった。今後、この対応をどうしていけばいいのか、色々な方々にアイデアをもらい検討したいと思う。

(金子委員) 司法書士の活動で、10月4日に研修と講演会を役場1階大ホールで開催予定。

(武井委員) 包括の人数が限られているなか、どんどん事業が増えており、負担も大きいのではないかと感じた。事業を行うことは大切だと思うが、負担がかかりすぎて内容が薄くなってもいけないため、事業の精査を今後していければいいと思う。

## (5) その他

特になし